

令和 6 年 2 月 2 日 議会のあり方調査研究特別委員会議事録
13時03分 開会

○出席委員 (8 人)

委員長 寺岡 公章

副委員長 末広 天佑

委員 豊川 和也、山代 英資、岡 和明、小出 哲義、
小田上尚典、細川 雅子

議長 北地 範久

○欠席委員 なし

○傍聴者 藤川 和弘、西村 一啓

○寺岡委員長 それでは、議会のあり方調査研究特別委員会を開きます。

この会議の日程は、政務活動費のあり方について進めることです。

末広チーフがアンケートの準備をして、皆さんの御協力をいただいて、アンケート回収まで至ってまとめてくれております。今日また進行はチーフにお任せしながら、より大竹市議会の活動がしやすいように、議員の活動がしやすいように、そして、それがひいては市民のためになるような、そういった議会になる一歩目、二歩目というふうな日程になるかと思います。

では末広チーフよろしくお願いします。

○末広副委員長 引き続き、政務活動費を担当させていただきます。末広です。よろしくお願いします。

まず最初に、アンケートの御協力ありがとうございました。最初にヒアリングという話をここでさせていただいてたんですけども、アンケートにさせていただいて、皆さん快く記入していただいて大変助かりました。ありがとうございました。

アンケート、ある程度目を通していただいたかなと思うんですけども、これどうやって議論を深めていくかというところで、ちょっと私のほうで、こういうところを議題に上げたらいいかなというところを上げてはきたので、それをちょっと見ていただいて、ほかにこういうことをやったほうがいいんじゃないかというのがあれば、言っていいただければと思います。よろしくお願いします。

3つ挙げさせていただいてるんですけども、ほかに政務活動費以外に必要な資源等、アンケートに書いていただいているんですけども、ここあんまり詰めると時間が幾らあっても足りないので、とりあえず、こちらはまた別のところで参考にさせていただくとして、まず政務活動費のところを絞って議論を進めていければなと思います。

一つ一つ説明すると、いろいろ金額の希望を書いていたしましたが、実際上げるとしたらどの金額でいくのかですね。

すみません最初に言えばよかったんですけど、アンケートには現状維持という方も中にはいらっしゃるんですけども、基本的には前回までにまとまっているので、増額の方向

で話は進めさせていただこうと思います。

具体的な金額を決めて、その金額の妥当性を考えていかないと、報酬審議会に説明ができないですし、あとは市民に対しても説明ができないので、そこは深めていかないといけないかなと思います。

2 番目の使い道については、使いやすくなるんじゃないかというところ、案を挙げていただいています。やっぱりインターネットの利用が増えてきて、そういったサービスの支払いにも充てたいという希望もあったので、そういうところを申合せ事項に追加していければいいのかなと思ってます。

透明性の確保についてですが、これほとんどの議員は今のでも大丈夫じゃないかという回答でした。一部の方からもうちょっとこうしたほうがいいんじゃないかという案があったので、そちらは必要か必要じゃないかというところを話し合っていければかなと思います。

今日は、この 1 番目の金額とその妥当性のところは、結構重い話になるので、今後、どう進めていけばいいか、皆さんと相談しながら、今日最後お話しできればと思います。

まず使い道と透明性の確保について、今日はお話しできればかなと思ってます。

これまで何か、御質問等ありますか。あともうちょっとこういうことを話し合ったほうがいいんじゃないかみたいな御意見があれば、お願いしたいんですけども。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○末広副委員長 ありがとうございます。

それじゃ、使い道のところから進めていきます。使い道なんですけど、結構多岐にわたって書かれてるかなと思うので、そういうところをピックアップしていきます。皆さんが書いていた金額を表にして、今の使い道を書いていただいた方は、下のほうに書かせていただいています。

金額だけ書かれていた方も、もちろんいらっしゃるんですけど、その中にこういうことに使いたいというのがあった物だけ、下に書かせていただいています。

[「研修費」と呼ぶ者あり]

○末広副委員長 私アンケートを見ながら、調査研究費と研修費の境目って何だろうと思いました。

委員長。

○寺岡委員長 調査研究費は事例調査、研修費は講演会の公聴であつたり、そういった物で、私は分けさせてもらいました。

以上です。

○末広副委員長 ありがとうございます。

ほかに何かあれば。

私は、研修費に全部まとめて書かせていただいているんですけど。

山代委員。

○山代委員 私はまだ書いたことがないんですけど、同じパソコンとか通信費とか、費目によっても議員によって入るところがそれぞれ変わってるところがあるので、ここら辺は統一したほうがいいのかなとは思っています。

○末広副委員長 具体的に使い方のマニュアルみたいなをつくったほうがいいという認識でよろしいですか。

山代委員。

○山代委員 何度も言うんですけど、私まだ書いたことがないんで、そのマニュアル的な物があれば大変仕分けをするのに助かります。

○末広副委員長 小田上委員。

○小田上委員 これはどういう支出ができるか、どこの費目に書くべきみたいなことと、政務活動費の申告する物とが完璧にリンクしてないんで、ばらばらになっているということだと思います。なので、ここをリンクさせてあげる作業というのは一つかなと思いました。

○末広副委員長 委員長。

○寺岡委員長 条例の別表に書いてあるので、あれをうまいことまとめられたらいいんじゃないかと思います。

○末広副委員長 これについてはどうしましょう。私がある程度作成して見ていただいたほうがいいですかね。

○寺岡委員長 そうですね。たたき台があったほうが議論が効率よく進むのではないかと思います。

○末広副委員長 じゃあ、私が事務局と相談しながら、まずたたき台をつくらせていただくという形でいいですかね。

小田上委員。

○小田上委員 使い道で特に不便だなと思ったことは正直ありません。なので、不便だなと思われてる方の不便なところを御紹介いただけたらなと思います。

例えば、インターネットの固定費を増額してほしいという意見が出てますけど、個人的な意見とすれば、インターネットは議員だろうが、議員じゃなかろうが契約してると思うので、なぜインターネットの固定費を増額しないといけないのか。

あと携帯電話も、これは判例で按分が決まってますけど、携帯電話もある程度普通に持ってる物で、じゃあ何で政務活動費から支出しないといけないんだろうと。正直、みんな持ってる物には、僕は政務活動費は使ってないので、使い道、使いづらいとか、広げたいというところについて、何か御意見があれば伺って、よりよい物にしたいなと思うんですが。

○末広副委員長 委員外議員の回答もあるので、思いを聞かなきゃ分からないところもあるんですけども、例えば、最近SNSで議員活動されてる議員も出てきてるので、そのサブスクリプションのサービスとか、全額政務活動費で上げていいのか、これも按分するのかというところは決めておかないと、今後困るのかなと思ったりはします。

私もサブスクリプションのAIサービスを議員活動等で使ってますけど、議員活動以外でも使わせていただいています。ここら辺どういうふうに判断つければいいのかなというのは、難しいと思うんですけども。そういう按分の考え方ってどうしたらいいんでしょうかね。

小田上委員。

○小田上委員 具体的な方法論は、まだ置いて、こういう事情だから、インターネットの料金を増やしたほうがいいんじゃないかと、そのサブスクの話もそうですし、何が困ってるかというところが、共有できて改善できるものがあれば、改善方法をこれから考えていくというのでもいいんじゃないかなと思います。

○末広副委員長 どういったことに支払いができるというのが、そういうのも共有が必要になってくるんじゃないかなと思います。

細川委員。

○細川委員 一番印象に残ってるのは、10万円以上のパソコンとか事務機器を購入するとき。さっき小田上委員が言ったように、議員じゃなくてもパソコンを持つだろうと言われてみれば、そこまでなんですけども、でもタブレットにしろ、パソコンにしろ、やっぱり議員であるから、このぐらいの物が欲しいなと買ったときに10万円超えますよね。それが減価償却で4年。あれいつも思うんですけど、なんで減価償却しなきゃいけないんだろうかと思いつながらというのが、4年ですよ、大体。

そうすると議員の任期4年ですから、途中でパソコンが具合悪くなって買い換えたとしますよね。だけど2年分しか減価償却で政務活動費出せないというのは、ちょっとなんかいかなものかと思うんですよ。ここは本人の判断に任せてもいいんじゃないかというか、減価償却で出してもいいし、その年の政務活動でまとめて一括でという、あそこは選ばしていただけたほうが都合がいいなと思うことがありました。

もう一つは、通信の容量とかも契約するときに、議員だからこそ、ちょっと大きめの容量にしておくとかはあるんで、今の上限1,000円もちょっと額増やしていただいたほうが助かります。

○末広副委員長 議員活動のやり方がいろいろ変わってきて、かかってくる費用もどんどん時代によって変わってきてるので、こちら辺はいろいろ合わせながら変えていければと思うんですけども、今細川委員が言っていた希望の中で、何か事務的に不都合なところってあるんですか。

○末広副委員長 小田上委員。

○小田上委員 今細川委員が紹介いただいた10万円以上超える機器の購入が、2分の1かつ4年間で割ってくださいと。その4年間で割ってくださいというところの理由が、今手元にある資料の中だとなかなか見つからないと。2分の1というところは、平成26年3月の大阪高裁の判例で、しっかりと根拠があるにしても、4年で割るということになるのが、根拠が不明だということですよ。なので、そこを改善できるかどうかだと思います。

○末広副委員長 ありがとうございます。

ここで結論がなかなか出ないと思うので、今の使い道について、アンケートで挙げたところも、事務局と私が相談しながら、これは変えられるんじゃないか、無理じゃないかというところをピックアップさせていただいて、次の委員会で諮ったほうがいいですかね。

委員長。

○寺岡委員長 今回こうやって分科会的なことをやっている目標は、額面なんです。その

前に何を話すかという、政務活動費を使ってやりたいことと、できることを整理しましょうという途中経過、内容を把握するために、それをあまり掘り下げてしまうと、目標地点になかなかどり着かないのではないかなと思いますので、その辺りを上手に配分していただきながら、進行されてはいいかなと思います。

ほかには、他市の事例を見て比較検討するとか、使途を調べてみるとかありましたが、あまり一つ一つの個別事案には踏み込まないほうがいいんじゃないかなと思います。

○末広副委員長 すみません、私が政務活動費の改善と捉えてたところもあるので、額を増やすというところを重点的に行くんだったら、委員長がおっしゃったとおりなのかなと。

時間があまりないことでもあるので、焦点絞って見直すところをまず議論して、その後使いやすいを見直していくという方向のほうがいいですかね。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○末広副委員長 ありがとうございます。

進捗が拙くて申し訳ないんですけども、額を見直すというところを焦点にして進めていければと思います。話し合わなきゃいけないところは、金額とその金額の妥当性ですね。これをどう考えていけばいいかなと思うんですけども、資料は単純に、平均を出させていただいています。また、基本的には財源はここでは話し合うことができないと思うので、妥当性というところで、どう説得力を持たせるかというところが問題になってくると思います。

細川委員。

○細川委員 さっき小田上委員が言われたんですけど、増額の方で進めていいかどうかというので、アンケートの最後の設問が、満足していますか、不満足ですかという設問でよかったのかどうかというのを、今さら疑問に思ったんですけど。

満足している人が多いんで、これでは増額の方にならないかなと思いながら、読んだんですけどね。ただ、これからの議員の成り手不足の解消のためにはという視点で考えると、今の額いかなものかと思うんだけど。今あるのは非常にありがたいですから、満足かどうかと聞かれると、すごく微妙な返事になって、アンケートも皆さんが一生懸命書いてくださったから、どう分析するのか。このアンケートの結果を見て増額は出てこないかもしれないと思うんですけど、ここからどうしたらいいんでしょうか。

○末広副委員長 山代委員。

○山代委員 アンケートを見る限り、金額ありきで話が進んでいると思います。これだけ支給があるから、ここまでは使えてるんで満足してますよと。逆にそういう方に聞いてみたんですが、上限がなかったらもっと研修へ行ったりと考えられるのかどうか。仮に増額しても行かなかったら返すお金ですから、そこは議論してもいいのかなとは思っています。

○末広副委員長 ありがとうございます。

岡委員。

○岡委員 私も2人の意見とちょっと近いのですが、ちょっと今出てない考えというのが、要するに受給できる中で、計画的に使うということがあんまり考えられてないという意見があまり出ていない。それでよいのではないかと、とりあえずは思うんですね。

それはいろんなところでも、ある種の原則で、例えばですけれども、民生委員・児童委員の活動費を考えると、あまりにも貧弱で、かつこれを声を上げて言える民生委員・児童委員というのはいないですね。政務活動費をもっと上げようという、そういう財源に余裕があるのであれば、民生委員・児童委員の活動費をもう少し上げるということを、やはり考えてもいいのではないかと。そういうその方策を検討してもいいのではないかと考えます。

これは実際そういうのをやっているところもあるんですね、福岡県とか。一つは、この政務活動費が多いと使える余地が選挙対策とか、あるいは私用またはそれに類するものに流用していくという動きが、どうしても出てくると思います。それはやっぱり避けなければならぬし、理解が得られないと思いますので、とりあえず受給できる範囲で計画的に使用するということで、私はいいのではないかと思います。

○末広副委員長 小田上委員。

○小田上委員 今まで政務活動費の報告をしている議員は、この範囲の中でこれだけできるだろうという感覚を持って、皆さんされてると思うんですね。定例会が年4回あって、それ以外でも委員会等は随時開催されてますが、定例会の会期中じゃないときは比較的動きが取れるので、4回ぐらい研修に行きたいなという考えは持ってますが、タイミングが合わない。あと政務活動費もちよっと足りなくなるところもあって、アンケートにもありましたけど、いっぱいある中から絞ってるという状態なのは間違いないかなと思います。

確かに岡委員の言われた、ほかの組織の活動費どうなんだという話になると、またなかなかこっちの話も前に進めなくなっちゃうのかなと思うので、そこはひとまず置いておいて、このアンケート問1では、ほぼ現状満足しているような雰囲気ですけど、問2では、減らせということは一文字も出てないんですね。むしろ増やしたほうがいいんじゃないかということが、圧倒的に多いということは、やっぱり計画していく中で取捨選択して、捨てていくほうが多いよという実感を、皆さん持たれてると思います。

増やす方向でいいんじゃないかと思ってます。今のところ。

○末広副委員長 私の意見ですけども、ほかのところでの優先度を言い始めたら、小田上委員が言うとおりの、多分全く進まなくなるんで、最終的にはこれ報酬審議会にかけるので、その判断は審議会にお任せしていいんじゃないかなと思います。

○細川委員 チーフが言われたことは間違いないんでしょうけども、ただ私たちとしてはこう考えますという、やっぱり一定の結論を出してから、報酬審議会へお願いするようになると思います。

○末広副委員長 説明不足で申し訳ないんですけど、もちろん議会として政務活動費は見直すべきだという妥当性をここで話し合ってから報酬審議会に出して、そこを判断していただくというところまで持っていければいいのかなと思ってるので。ほかのところに予算を回すというような考え方を、今ここで出すと話が進まなくなるんじゃないかなと思います。細川委員。

○細川委員 岡委員が民生委員・児童委員の活動費について十分でないと思われてるのは、私自身も疑問を持ってるんですけども、それについては民生委員・児童委員のほうで、もう少し活動の実態をよく知ってらっしゃるわけですから。私もここはいろいろ話を聞いて

たときに、むしろもらわないで活動するほうが、民生委員・児童委員としては活動しやすいと言われている方もいらっしゃるんですよね。だからあんまり議会から口出しをしないほうがいいと思います。

むしろもう少し聞きたいのが、額を増やすと選挙対策に使うんじゃないかと岡委員がおっしゃったんですけど、全然自分の中でそのイメージなかったのもう少し具体的に言っていたら、意図がよく分かると思うんですけど、聞いてもいいんでしょうか。

○末広副委員長 岡委員、何か思いがあれば。

○岡委員 思いはありますが、ここはいろいろ微妙なので、今はちょっと言わないですが、その前にもう少し大きな話として、やっぱり議員でなければ考えられないことというのがあって、それはこの政務活動費を上げることで、社会がよくなるかどうかというのは私は担保されないと思います。しかし、民生委員の活動費を上げれば、必ず社会をよくなる方向にいく。そして、そういうことを、議論をよその話だからしないほうがいいという話は分からないのではないのですけれども、そういう少し広い話をするというのも、ここでは大事なのではないかと思っています。

○末広副委員長 ありがとうございます。

ここで議員だけで話し合っ、それを押しつけるというわけにもいかないんで、それはまた当事者の方々と話をする別の場が必要だと思います。議会のあり方というところに、岡委員のおっしゃるところも含まれるのかもしれないですけども、ここで話すべきではないんじゃないかなと私は思います。

小田上委員。

○小田上委員 確かに岡委員が言われたとおり、政務活動費の上限が増えたからって、担保されるかと言われると、確かにおっしゃるとおりだなと思います。

ただ今正直言うと、物価も上がってきて、今まで2回ぐらいできてた研修も、1回でもう終わりかなみたいなことも増えてきてる。ほかのところに波及させたいんだったら、自分たちの身をもって分かっているから、議会は政務活動費を増やしたいという方向でやってるんだと、やっぱり増額もあるよねというのが浸透していけば、議会が増やしたんだとじゃあ自分たちも増やしてくれよという機運になるのかな、そういう機運になるような議論ができたらいいのかなと思いました。

○末広副委員長 アンケートの1問目のところで、なかなか難しいところもあるのかもしれないですけども、アンケートの中では多数の議員が増やすべきと回答しているので、できれば増やす方向で話を進めたい。

こういう思い、事情があるから増やしたいというのを、ここでまとめて、判断は報酬審議会に仰ぐという形で、私はそれで進めたいと思うんですけど、いかがでしょうか。

小田上委員。

○小田上委員 このアンケート見て一番不安なのは、使いづらいから使ってなくて余ってるのか。少ないから使えてないのかということ、あんまり見えてこなかったんですね。使いづらいところも結構あったりして、別表で出している費用でも、結構使えたらいいよねと、金額どかんと書かれてる方もおられるし、現実的にこんなもんよね、みた

いなところで書かれてる方もおられるし、これ見てもあんまり現実味がないというか、いろいろ使い道って人それぞれなんだなと思ったんですね。

人それぞれの使い道があって、今現状使いにくいと思ってる議員がいて、増額しますといってもその効果は低いんじゃないかなと思ってるので、使い道を改善するほうが先なのか、増額が先なのか。どっちなんだろうというところは、今すごく個人的には悩んでるところなんですけども。

僕はどっちを取り組むべきかは、まだ明確じゃないのかなと思ってます。

○末広副委員長 小出委員。

○小出委員 どういうふうに話を進めていくかということで、委員外の方を含めて行ったアンケートの結果として、設問2で増やすべきという方が、大半ですよ。現状維持という方が1名程度いらっしゃいましたけど、ということであればこの増額という方向で話を進めていっていいんじゃないかと思います。そのためにアンケートを取ったわけですから。

○末広副委員長 岡委員。

○岡委員 ただその一方で、満足しているという回答が多いということも先ほどありました。さっき私が言ったことというのは、別にここで民生委員・児童委員の活動費を上げろという話をしようというわけではないわけです。そうではなくて、言わばこういうお手盛りができるような立場にあるのは、議員だけである。民生委員・児童委員では到底そういうことはできないわけです。

それをやはり自覚的に自覚すれば、一つの誰もが認めてもらえるというのは、今ある額を計画的に受給できる範囲で、計画的に使うというのは十分考えられるけれども、なぜかあまりそういうことが主張されてないので、こういうふうに言わざるを得ないということになったわけです。

以上です。

○末広副委員長 ありがとうございます。

個別の案件を置いておいて、増やすべきではないという方もいらっしゃるというところですよ。

○小出委員 何回も話が出てきてると思うんですけど、設問1と設問2の聞き方にもよるんだろうと思うんですけど、今この現状の金額に満足しているということであって、設問2を同じ方に質問したときに、もう少し増額したほうが活動しやすくなるよねというところだと思うんですよ。

であれば、設問2で圧倒的に増額したらどうでしょうかということであれば、その方向で話進めていっていいんじゃないかと思います。

○末広副委員長 ありがとうございます。細川委員。

○細川委員 岡委員が言われてる、政務活動費を増やしたことが、社会をよくする方法を担保されるのかという疑問って、すごく刺さったんですけどね。やっぱり今回政務活動費を増額しようという話は、議会をよくしよう、役割を果たせる議会になろうということで、そのために政務活動費のことが一つ上がってきてると思うんですよ。

じゃあ増額すれば済むかというんじゃなくて、増額していただいたことで何が変わるか

とか、私は、政務活動費を先にいただくときに、自分の活動計画を出したほうがいいんじゃないかという案を出させていただいたんですけども、今それぞれが議員の活動の中で、すごいいろんな使い方してるじゃないですか。

市に補助金いただくときに、最初に活動計画とか目的みたいな出すじゃないですか。その上で、補助を出していただいて、結果報告もしますよね。

私たちは、今結果報告しかしてないんですけど、活動計画のようなこういうことに役立つと思ってるから、この1年間はこういう活動をしたいというのを出して、1年たったときに、それがどうだったかという見直しができるような形にしたら、結果として、少しは社会のお役に立てるような活動ができたということが見えてくるのかなと思います。増額に伴ってこの制度も、使い道とはちょっと違うと思うんですけど、考えていくべきかと思っています。

透明性の確保の部分に関しては、やっぱりこういうふうに改善しているというのがセットにならないと、なかなか御理解はいただけないように思います。

○末広副委員長 御意見いただいてありがとうございます。ちょっと話が前後してるところで申し訳ないんですけども、さっき言ったお話で進めていきたいと思ってるんですけども。

○細川委員 何で増やさなきゃいけないのかという辺りを、このアンケートで見えてきたところからちょっと出してみるとか。

○末広副委員長 そこから始めますか。

時間もちょうどいいので、休憩しましょう。

再開は2時にしましょうか。

13時52分 休憩

14時00分 再開

○末広副委員長 2時になったので再開します。

とりあえず話を1回アンケートに戻そうかなと思って、先ほど最後に細川委員が言っていたいたところを、皆さんで抜き出しながら、こういうところが使いにくいから、増やしたいというところに持っていければと思うんですけども。

アンケートの中で、増額が多数あるので、基本的には増額の方で話を進めてさせてください。その中で妥当性を考える上で、ここの項目は大事なんじゃないかというところがあったら抜き出していきたいんですけども、皆さん何かあったら御意見お願いします。

小田上委員。

○小田上委員 大前提で申し訳ないんですけど、アンケートを取るときに、このアンケートが全てじゃないよという話はしたかと思います。増やすべきという意見が多いから、増やすべきではなくて、この増やすべきという意見を見ながら、確かにそうだなとこの中で思ったから増やすべきになったということの理解でいいですよ。そこすごく大切だと思います。

○末広副委員長 そうですね。このアンケートで決を取るわけじゃないので、この中で増やすべき理由を抜き出し해いながら、その方向に持っていければいいのかと。

細川委員。

○細川委員 固定費の支払いだけで、もうなくなっちゃうという方がいらっしゃるということは、やっぱり今いろんな最近の役に立つ物を活用しようと思ったら、それだけで足りなくなるんでしょう。

○末広副委員長 今ここにいらっしゃる委員の中で、そう思われる方っていらっしゃいますか。

小田上委員。

○小田上委員 誰がどうこうとかじゃなくて、例えば固定費で常に使ってる物が、結果として、選挙のときにも使われるような物であれば、政務活動費って難しいと思うんですよ。個人的な考えでいけば、政務活動費を使って、議員活動をしていくのはもちろんそうなんですけど、その機能とかを使って、選挙活動に使うのはよくない、難しいとは思いますが、固定費だけで政務活動費月 1 万 8,000 円を使おうと思えば、使えると思います。やればやるほど固定費はかかると思います。

○末広副委員長 金額を書いていたところもあるんですけど、調査研究費と研修費と広報費で大体使われてて、特にこの 3 項目に活動費が使われやすい。アンケートでは特に研修費は 1 回、2 回で、もう全て使い切っちゃう。広報費はそもそも足りてないという状況ですよ。広報費は使い方によって、50 万円、100 万円簡単にかかってくるところなので、それが本当に妥当かというのは確かにあるんですけど、どれについても言えますよね。

アンケートの中で、あればあるほど幅は広がるんじゃないかという書き方をされてた方がいらっしゃったと思うんですが活動の幅が広がるというか、あればあるほど使っちゃうという。今の中で制限してるということだと思うんですけども。

山代委員。

○山代委員 何のために研修費が要るかという話ですよ。研修なんて別に行かなかったら行かなくてもいいわけですよ。研修に行って得た知識を大竹のために使うために研修に行くわけで、当然自分の時間を使っています。岡委員がさっき言われたように、確かに行ったからといって担保はないです。

ただ行って得た知識を市政に反映するというのは、議員の義務だと思っています。そこら辺はもうちょっと考えたほうがいいんじゃないかなとは思っています。

○末広副委員長 小田上委員。

○小田上委員 今山代委員のおっしゃったこと、そうだろうと思うんですが、時間を使ってというのは、議員が研修に行く時間を自分が使ってということです。もちろんそれを使ってるので、政務活動の計算の中で日当という考え方があります。宿泊を伴わない場合と宿泊を伴う場合で、日当の規定は違いますし、その旅費の計算も全部された上での政務活動費用になってくるので、それがあからこそ 1 回研修に行くと、研修先の参加費もめちゃくちゃ高いんですけど、その日当というところもありますよというところだと思います。

○末広副委員長 細川委員。

○細川委員 今研修が出ましたけど、やっぱり視察も行ったほうが役に立つと思います。も

ちろん常任委員会で行きますけれども、あれ年に1回ですからね。やっぱり行きたい、ぜひここを見ておきたいというところを、1回でも2回でも行ければと思います。その本当にこの2つを合わせたら、軽く今の政務活動費超えますから。

私自分自身がセミナーとか参加した感想ですけど、やっぱり行かなければ得られなかったもの、特に国の財政の問題とか地方に直結してますし、それとか介護とか福祉とかを私は主に行くんですけど、制度がどんどん変わってますから、ここにいて本読んだだけじゃ、なかなか今国がどんなふうなことを考えて、方針を決めてるかという辺りは分かんないことが多いので、やっぱりそこへ行って政府関係の方の話を聞くとか、詳しい方の話を聞いてくるというのは、今後の自分の議員活動に物すごい役に立ってます。

ということでやっぱりできるだけ行くべきだと思います。

○末広副委員長 ほかにアンケートの中でもいいですし、こういうところが不便だから増やしてほしいというようなところがあれば。

小田上委員。

○小田上委員 僕は東京への研修はあんまり行かず、博多とかああいいうところが近場でいいんですけど、博多の距離でも交通費や受講費で5万円とかすぐ使っちゃう。これが東京とかになると、もちろん物価も高いし、東京なんて年に2回行けば、もう政務活動費全部なくなっちゃうような金額だと思います。

もうちょっと増額していただかないと、やっぱり会期ごとの間にテーマを持って活動したいなと思ってるので、今の金額だと難しいかなと思います。

○末広副委員長 研修費が足りないという方向になってますけど、ほかに何かありますか。
豊川委員。

○豊川委員 私は現状で本当にありがたいと思ってるんですけど、我々議員のために増額するとかじゃなくて、これから立候補されて議員になる方が、今YouTubeで見ておられるかもしれないので、その方のためには、政務活動費は増やすべきだと考えています。今いろいろな委員の意見を聞いてたら、交通費や宿泊費で結構飛んじゃうとかと言われてますけど、使い方というのは、考えなければならないのかなと思います。

例えば、私も個人で視察に行くことが結構多いんですけど、夜行バスや車で行ったりすると、新幹線よりはすごく安く行けます。他の市町の議員と車で乗り合わせて行ったりとか、宿泊にしてもインターネットカフェとか、カプセルホテルとかに泊まって、そういうふうにコストを抑えるというのも、大事なんじゃないかなとは思っております。

以上です。

○末広副委員長 未来の議員が活動しやすいように、候補が増えるようにというような書き方もアンケートにさせていただいたので、その視点も妥当性としてはいいんじゃないかなと思います。

細川委員。

○細川委員 税金ですから工夫してできるだけ節約するのは当然のことなんですけど、申し訳ないけど、私車では行けないし、カプセルホテルに泊まったら、次の日のセミナーが受けられませんか、そこを標準にして語られると、とても困っちゃうので、次の議員にな

る方のことを考えていただけたら、女性でも車の運転ができない人でも使えるようにという視点で、発言していただけると大変ありがたいです。

○末広副委員長 小田上委員。

○小田上委員 政務活動費は使えるところが限られてて、交通費についても日当についても、もう全て規定があるんですね。それを超えて活動する分には、自分の持ち出しでやっています。政務活動費の報告書には、大体22万円か23万円くらいの申告をしていますが、実際は、多分倍はいかないけど、30万円は超えてるくらいのことはやっているつもりです。

かなり節約されながら、うまいことやってるんだろうとは思いますが、規定の中プラスで何とか回数を稼いでいるというのが正直なところかなと。

日当や交通費が、そのまま使われてるわけじゃないというと言弊しかないんですけど、工夫しながらいろんな議員されていると思っています。工夫しないとこの金額だとできない。でも工夫すればできるという絶妙なバランスのところなので、おおむね満足で出てるのかなと思います。

○末広副委員長 ここで挙げていただいた意見を私が文章にまとめて、次のときに諮っていただければいいんじゃないかなと思っています。それには増額の理由をもっと挙げていただいたほうがいいんじゃないかなと思うんですけども、ほかに何かアンケート内とか、アンケートに書いてないところでもいいので、意見があればいただきたいと思うんですけど。

山代委員。

○山代委員 私なんか新人でまだ経験がないので、調査研究費とか研修費とか分からないんですけど、今使われてる方で、取捨選択をされたというお話もありました。本来ならもう何件か行きたいタイミングがあったし、費用面でも工面できたら行けてたという方が多いのであれば、それは増額の根拠になるんじゃないかなと思います。

○末広副委員長 ほかに何かありますか。

細川委員。

○細川委員 今の増額の根拠なんですけどね、このアンケートで、満足しているのは圧倒的なんですけど、決められた額の中で工夫して使っているというのが何件かありますよね。これがまさに今山代委員が言われたことだと思うんですよね。私なんかはあんまり考えないで、行きたいのは全部行けるだけの自由度が議員報酬の中にありますから、あんまりそういう考え方をしたことないです。本当は、これも、これも行きたいけど、政務活動費は全体でこれしかないんで、その中でやっぱり精査して行ってるというのが、もっとあればもっと行けるという裏返しかなと思って読みました。

○末広副委員長 ほかに。

細川委員。

○細川委員 政務活動費の中で要望とかというのが新たに入りましたよね。最初は要望活動とかいうのはなかったんですけどね。前なかったというのものもあるから、私自身は全然使ったことないんですけど、例えば地域の方から出た国関係の要望で、どうしても国、東京まで行かないといけないとかになったら、それだけでも結構使いますよね。誰が使った方い

らっしゃるのかしら。どうなのでしょう。

○寺岡委員長 私も要望使ったことないんですけど、議会としてある程度考えをまとめて、私たちのまちはこの方向に進んでいるので、ぜひ力を貸してくださいというふうに行かないと、何万人もが省庁に行ってしまうので。向こうは通常の業務をすることができなくなってしまうので、ちょっと使い方を大分考えなきゃですね、これは。

小田上委員。

○小田上委員 アンケートの中で何件か見えたんですけど、政務活動費と議員報酬、これをしっかり分ける作業というか、分かってもらうというのが必要なんじゃないかなとは思いました。

政務活動費から子供の服は買ってませんが、議員報酬から子供の服を買ってるんですね。政務活動費で御飯は食べてませんが、議員報酬で御飯を食べてるという。多分第二の報酬に見られてるという言葉があったような気がするんですけど、しっかり政務活動費って、別に僕らが好き勝手に使える物じゃないんだよというところは、もっと知ってもらう努力も、必要なと思います。透明性というところかもしれないですけど。

○末広副委員長 それは透明性のところでまとめさせていただいたらいいいのかと思います。

細川委員。

○細川委員 広報活動のことが全然出てないんですけど、やっぱり議会の活動を市民の皆さんに知っていただくものの一つの方法としたら議会報告か、議会報告をペーパーでお届けするというのは、知っていただくためのいい有効な手段だと思うんですね。市議会だよりとは別な視点で、それぞれの議員が書くわけですから、1人でそれをやろうと思ったら、非常に費用がかかるんじゃないかと思います。

例えば、うちの会派で市域に配布させていただこうと思ったら、やっぱり1回20万円ぐらいかかると。例えば会派でできれば、もっと安くできるということで何とかできますけど、1人で出そうと思ったらそれだけでなくなりますよね。

その辺皆さん、どうなのかね。

○末広副委員長 アンケートの中でも、そこら辺は表れてるのかなと思います。やっぱり広報には費用がかかりやすいので、それは理由として書いてもいいんじゃないかなと思います。

そろそろ、ここまとめに入りたいんですけども、今挙げさせていただいた中で私がたたき台をつくってきて、それを次でもんでいただこうかなと思います。

問題は金額なんですけど、多分なかなかまとめ切れないような気がするんですけども、どういうふうに進めていったらいいのかなというのが、私あまり想像がつかないんですけども。金額の妥当性を出すという進め方ですね。

どうしていこうかなという御相談なんですけど。

委員長。

○寺岡委員長 アンケートの中で一覧表を我々皆出したんですけど、あれはどういう使い方をしようと思って設問をされたんですか。

○末広副委員長 どういうふうに使われているか、それと使っていきたいか。使い道がこう

いうところで困られてるというところで、そういうのも具体的に出していただきながら、
こういうふうに使って行きたいというのを、金額で表していただいたんですけども。

委員長。

○寺岡委員長 さっきもんでいくという表現を使われたんですが、流れとしては、そのもんでいったものを報酬審議会に資料として添付して、それで開催要請をするというそういうことですね。

○末広副委員長 金額と妥当性を添付して、出すべきだと考えています。

委員長。

○寺岡委員長 今回傾向を調べるということで出てるのであれば、項目を、今大竹市議会議員は調査研究費、研修費並びに広聴にまだまだ力を入れていきたいという議員が多いようである。ついては、これらについてはおのおのこの程度ずつかかるというふうな検討結果で出ましたと、この辺りを配慮しながら、審議をお願いしたいみたいなそういうことになるんですかね。

○末広副委員長 ありがとうございます。

私金額がありきで話を進めてたんですけど、そういう進め方はないんですか。

委員長。

○寺岡委員長 具体的にこちらの金額を指定すると、逆にこの金額にするか否かという話になると思うんですよ。だから、大体これぐらいかかるみたいです、というぐらいかなというイメージを持ってるんですが。

○末広副委員長 ほかに何か考えがあるかというか、意見がある方いらっしゃいますか。

委員長。

○寺岡委員長 逆に、ばちっとこの金額で報酬審議会に丸をつけてもらいましょうというのが大勢であれば、それで出してみてもいいと思いますけどね。

○末広副委員長 今委員長の意見について何かある方いらっしゃいますか。

細川委員。

○細川委員 私は報酬審議会に、このぐらいの金額にしてほしいと言ってもいいんじゃないかと思うんですよ。その根拠として、例えば今回出してもらった平均で、44万2,558円ですか。これでは、うんと言っていないんじゃないかという不安があるから、例えば県内他市との比較とかもあると思うんですけども、ただその上げていただきたいという中に、さっき委員長が言われたように、例えば調査研究だったら、1年に1回ぐらいはどこかの市町に視察に行きたいと。

そしたらやっぱ5万円ぐらいはかかるんじゃないでしょうかとか、やっぱり知識を広げるために、最低でも会期の間2回ぐらいはセミナーに行きたい。そういう希望を出すと多分40万円ぐらいなっちゃうかもしれないんですけどね。40万円全部出していただきたいとはお願いはしないけども、例えば30万円ぐらいだったら、考えていただけませんかとか、25万円ぐらいだったら何とかしていただけないでしょうかとか、ああいう感じでお願いします。

○末広副委員長 今の委員長と細川委員の意見に対して、何かある方いらっしゃいますか。

小出委員。

○小出委員 前回の会議のときに、一つモデルパターンをつくって、それで計算してみたらどうかというところから、こういうアンケートを取ったんだろうと思うんですね。ただアンケートを取ったときに、個々の議員によって、どれぐらいの内容を行いたいという方がばらばらで、かつ固定費についても支出してる人、支出してない人とかということで、あるいは研修についても、年何回ぐらい参加したいのか、全く参加しないのか。

そもそも、この政務活動費自体を当てにしている人と、当てにしない人とかもおりますので、ばらばらなので、その上で出した金額の平均値というのは、やっぱり一つの意味を持つ物だろうと思うんですね。

政務活動費使わない分については返還するわけですから、ある意味上限値を希望金額にしてもいいぐらいなんだけど、一応これ使わない人もおって平均を取ったわけですから、この平均値というのが一つのベースになるのかなと私は思うんですが。この中で突出してこの金額は多過ぎるだろうとか、少な過ぎるだろうとかというような、例えばオリンピックじゃないですけど、1位と最下位を除いて平均値を取り直してみるとか、この金額は特におかしいんじゃないのというようなところは精査してみるとかして、改めて金額をはじいてみたらどうなのかなと思いました。

○末広副委員長 ありがとうございます。

金額を参考として出すのは、簡単ではないんですけど、数字上取ればいいと思います。問題は委員長がおっしゃっていただいたところにもあるんですけど、どうやって説明するかが非常に難しいなと思ったりはするんですけど、その理由を出して、例えばここまでお願いしたいですけど、何とかこれぐらいまで出してほしいって、なかなかそういうのを文章につけて出すのも、難しいとは思いますが。

金額は報酬審議会で判断していただくというのは、やりやすくはあるんですけど、例えば1万円、2万円しか上がらなくなったら、またそれはそれでこっちとしては困るかなというところがあるので、どういうふうに説明したらいいのかなというのは正直難しいなと思って。

小田上委員。

○小田上委員 チーフが1万円、2万円上がったところでどうしようもないと言われたのは、本音だと思います。なので、1万円、2万円上がったところでしょうがないという雰囲気になってるんだったら、自分たちはこれぐらい欲しいんだというところは、しっかり提示したほうがいいんじゃないかなと、今いろんな方のお話聞いて思いました。

小出委員の言われたとおり、ちょっと極端な物を除いた平均値と、あと研修のことについては、ほぼほぼコンセンサスを得られているような雰囲気も感じるんですが。僕は具体的な金額をいえば30万円くらい欲しいなど。

であれば、本当に会期ごとに研修も行けるし、先ほど細川委員の言われた広報費も1回か、2回、みんなでやればできるかなとかというところがあるので、個々が思う具体的なモデルをつくってくるというのも、一つかなと思いました。

自分だったら30万円でこれするよというところとか、幾ら欲しいとか自分の考えを出し

て平均を出すというのでも面白いかなとは思いました。

○末広副委員長 ありがとうございます。

例えば宿題として、今回は上限なしで希望を書いていたいただきましたけど、制限をつけるというわけじゃないですけども、もうちょっと自分の中で詰めて、金額をはじいていただいて、その平均を取るというイメージですかね。

今の意見に対して、何かある方いらっしゃいますか。

委員長。

○寺岡委員長 実際返ってきたアンケートの回答は、副委員長しか持っていないんですが、例えば6番の随時とか、何か別に意見が付け加えられとったのか。あと私は備考で用途を全部書いとったんですよ。今回は傾向なので載ってないんですけど、それをほかの人が書いてないんですか。ちょっと分からなかったから何とも言えんのですけど。

○末広副委員長 表の中には用途を書いていた人、書いていない人いたんですけど、書いていたのが3分の1ぐらいですかね。アンケートの中で、用途については、自由記述欄に書いてほしいと書かせていただいてました。確かにこの数字に対しての、こうやって使っていきたいよというのは少なかったのかなと思います。

小出委員。

○小出委員 すみません、随時って書いてしまったんですが、実際この項目で支出したことがないから分からず、ただ、ある程度の金額はかかるだろうと思うけれども、金額自体が思い浮かばなかったもので、随時と書きちゃいました。そういう方も新人の中では多いのかなと思いますから、もう少し具体的に計算するというのであれば、ある程度先輩議員に聞きながら、金額を出してみたいとは思いますが。

○末広副委員長 まだ使われてない方が4名いらっしゃるんで、精査して、また金額はじいてみるというのは、なかなか難しいところではあるかなと思います。先輩議員に聞きながら改めて書いてみるというのも、ありかなと思うんですけども、ちょっと前に意見が出た計画ですよ、細川委員がおっしゃられたんですかね。

透明性という意味じゃ、計画を立ててそれに沿って使っていくというのは、確かに大事だと思うんですけども、それを透明性の確保についてやっていくかどうかは、また議論が必要なんですけども、計画を立ててモデルケースとしてやってみるのはありなんじゃないかなと思ったりはします。

これはまだ使われてない方に聞いてみたいんですけど、計画出すことができますか。

○小出委員 僕は一応希望で書いたつもりではあるんですけど、細部が分からない費目もありますけれども、研修や広報は、ある程度イメージで、ビラを制作して、それを織り込んだら大体どれぐらいかかるのかというイメージから、計算はしてます。

○末広副委員長 これ以上もうちょっと詰めたいという方がいらっしゃったら、確かにもう一回宿題にするのもありかなとは思いますが、さっき言ったような極端な数字除いて、平均取ってみてというのもありだとは思いますが、いかがですか。

委員長。

○寺岡委員長 数字が出るというのはすごい大きな影響力になるわけですよ。そこに惑わさ

れないという、あらかじめのみんなの共通認識があればいいんじゃないかなと思います。
あくまでデータとしか見ないという。

○末広副委員長 文章にどう落とし込んでいくかは私がこれをまとめて、そういうニュアンスも織り込みながら文章を考えて、皆さんに見ていただくのが進め方としては楽ですかね。
小出委員。

○小出委員 どういうふうに落とし込んでいくかなんですが。さっき言ったように突出した部分をはじいて平均値を取ると、金額が大体出てくると思うんですね。その金額が出たときに改めて、じゃあこの金額で具体的に何ができるのかというところを計算してくれば、それが一つ報告できる物になるんじゃないんですかね。その金額の中で、研修には何回参加できる、広報がどれぐらいできるというところから、今できないところのその上限値増えた部分だけを、もう少し活動を増やすためにという説明で持っていけるんじゃないかなと思います。

一人一人やっぱり活動が違うので、結局平均を取るという方法しかできないのであれば、それで平均取って金額が決まれば、その中でどれぐらいの活動ができるかというところを、ある程度計算していったというやり方。

○末広副委員長 小田上委員。

○小田上委員 小出委員の言われたとおり、上も下も極端なやつを取っちゃえば、結構いい感じの平均が出るんじゃないかなと、何となく思ってますが、それはそれとして、もうアンケートは、こういうことを思ってるんだなという程度にして、せっかくこの委員のメンバーなんで、自分だったらここはもうちょっと欲しいみたいなのを、結局何で増やしたんだといったら中継見てください、もう本当にかんかんがくがくやってますよと。自分たちの思ってること言ってますよと言えるくらい、もうざっくばらんにやっちゃうしかないのかなと思います。

あんまりアンケートに縛られ過ぎると、理由がアンケートがこうだからになっちゃいますよ。このままで増額する方向にしても、金額を決めるにしても、アンケートがこうだったんで決めましたといったら、議会のあり方調査研究特別委員会で決めたというよりも、アンケートで決めたになっちゃうんで、小出委員が言われたやつは、やっぱり使えばらばらだね、ある程度ざっくりした想像する物にはなるけど、形をつくるのはもう僕らでいいんじゃないすか。

ざっくばらんに言ってくという方法しかないのかなと思いました。

○末広副委員長 ありがとうございます。

進め方として、次の会議で一つ一つ追っていくという形ですかね。調査研究費が大体皆さんの意見でこれぐらい出てますけど、これについてどう思いますかというような。

委員長。

○寺岡委員長 15人いる組織体のいいところを潰すような気がします。いろいろな研さんの仕方があって、いろいろな特技・能力がある人が15人集まって意見を出し合うからこそ、よりそがれた結果になるんじゃないかと思うんですよ。例えば使途について、あまり何かつまびらかにするとか、こういう物というふうに決めてしまうと、そのよさがそがれ

るような気がするんですけどね。

○小田上委員 仮にモデルをつくるのであれば、研修特化型議員、広報特化型議員、書籍購入特化型議員みたいなのをやっとなないと、多分いろんなパターンの議員がいると思うんですよ。だから結局そのパターンつくったところで、何の意味があったんやになると思うので、もうこれだけ増やしてほしいみたいなのを、ここで腹を割って言うしかないのかなと思っているんですけど。やっぱこれぐらいが妥当かねというのになるのかなと、アンケートを基に探り探りやってたら、チーフもしんどいんじゃないかなと思うんですけど。

○末広副委員長 暫時休憩します。

3時に再開します。

14時47分 休憩

15時00分 再開

○末広副委員長 3時になりましたので再開します。

とりあえず決まるところを整理します。先ほどアンケートだったり意見の中であった、増やしたい理由を書き出したので、これを私がまとめて文章にして、次に皆さんに読んでいただいて、それが妥当かどうかというのをもんでもらう。

今課題になっているのが、実際の金額ですよ。それをどうするかというところですけども、今休憩室でもモデルが必要なんじゃないかという話が出てて、それでもやっぱりモデルするのは難しいという話もあったんですけども、実際もう私が平均を参考にして、皆さんの話も聞きながらモデルをつくってきて、それについてたたき合うようなやり方はいかがですか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○末広副委員長 よろしいですか。じゃあ次はそうにして進めさせていただければと思いますので、各議員にこの委員会のメンバーにちょっと聞いて回るかもしれないんで、そこは御協力いただければと思います。

じゃあ、今日はこの程度に。

[「我々の宿題はない」と呼ぶ者あり]

○末広副委員長 宿題については、とりあえず今回私が全部取りまとめて、文章と数字をつくってきますので、ほかにこういう意見も入れたほうがいいんじゃないかというのは、アンケートもそうですし、追加で入れたほうがいいような物があるようだったら、次に言っていたいただければと思うんですけども、それを考えてきていただければなと思います。

[発言する者あり]

○末広副委員長 透明性は次にしましょう。それが決まってからでいいと思います。

それでよろしいですかね。

じゃあ、次の日程を決めたいと思います。

小田上委員。

○小田上委員 21日の午前中に議会のあり方調査研究特別委員会がありますので、今日と同じ方法で午後からはいかがでしょうか。

○末広副委員長 皆さんいかがでしょうか。

委員長は。

○寺岡委員長 大丈夫です。

○末広副委員長 はい、ありがとうございます。

それでは、前の会議がいつ終わるか分からないので、終了後とさせていただきます。

それでは、今日の政務活動費については終わらせていただきます。拙い進行に付き合っていて、ありがとうございました。

委員長に代わります。

○寺岡委員長 末広チーフ長時間、お疲れさまでございます。

一つずつ確認しながら進めてくださってると思います。ベテラン議員と初めて政務活動費に関わる新人議員と混ざっている中で、いろいろ着地点が難しいかもしれませんが、知恵を出し合ってよい結果になればと思います。目標に向かってこれからも頑張ってまいりましょう。

では、今日のところはこの程度にしたいと思います。ありがとうございました。

15時04分 閉会